

田村市地域公共交通計画(素案)に係る意見及び市の考え方

No	掲載ページ	意見欄	市の考え方	計画への反映
1	3p	欲張ってアレもコレもマスタープランに入れず、第一義・市民生活の安全・安心を確保すること(病院・買い物・会談・会合)最優先としていただきたい。次いで、緊急災害時にどう対応するかも補足願いたい。	<p>・本計画は、地域公共交通の現状、課題の整理を踏まえ、本市にとって望ましい持続可能な地域公共交通の姿を明らかにし、その実現に向けた住民・交通事業者・行政の役割、取組みの方針を定めることを目的としております。公共交通の基本的な方針として「あらゆる世代の日常生活を支える利便性の高い持続可能な地域公共交通の実現」を目指して参りたいと考えております。</p> <p>・本計画においては、公共交通施策におけるマスタープランとして位置付けられていることから、関連する計画等との整合性や連携を図る必要があります。ご意見の災害時の対応については、「田村市地域防災計画」(第2章 災害応急対策-第12節 交通の確保)に即した対応を取るべきと考えております。</p>	無
2	26p	MaaSの一般定義や概念よりも、海外(欧州各国)の立派な運行事例などを参考にして、中間山間部あぶくま地域で上手く移動サービス巡回できる動線・ネットワークを再考願いたい。	<p>・基本目標5 事業4「MaaSの導入にむけた調査・研究」に位置付けているとおり、本市における導入のメリットなどを検討・整理するとともに、その活用等における最適な動線を検討して参ります。</p>	無
3	32p	スクールバス活用に関して、ドライバー不足が顕在化しているので公共バス運転手(2種・大型)の確保などで予算枠を十分に取ることは必須です。	<p>・基本目標5 事業3「乗務員募集」に位置付けているとおり、交通事業者等の多様な主体と連携を図りながら、必要な人材及び予算の確保に努めて参ります。</p>	無
4	40p	「公共交通ネットワーク将来像」を俯瞰すると、下記3地区のネットワーク(交通網)も考慮願いたい。 ①船引西部地区／南部地区(芦沢・堀越etc) ②大越(牧野栗出)及び滝根(入新田他)の地域 ③磐越道、あぶくま高原道、常磐道など高速道とのアクセスおよび高速バスの乗り継ぎ時刻表	<p>・公共交通ネットワーク将来像では、市内全域を公共交通機関が網羅するように、近隣市町村への移動を担う鉄道及び路線バスと、郊外部から市街地へのアクセス手段として乗合タクシーを役割分担を行っています。また、市内の公共交通が総合的に記載された時刻表の作成など、「分かりやすい案内」対策を進めて参ります。</p>	無
5	63p、67p	(推進主体)が田村市及び交通事業者に偏り過ぎると、市民目線／利用者の立場が希薄になりがちなので、是非とも有識者のみならず、足腰の弱い人々の協力を仰ぐ必要あり。	<p>・ご意見のとおり、市民及び利用者目線に立った事業を進める必要があることから、市民には利用者目線の積極的な意見・アイデアを提案する役割を担っていただきたいと考えております。</p>	無
6	71p	①インタビュー調査対象をマイカーを持たない高齢者に絞っているが、75歳以上の後期高齢者全体を対象にして、広く多くの声を聞き取ることは必須と思いますが…。 ②また、調査項目も多種多様で広範な行動アイテムを数多く提示して、Yes or No で答えやすくして頂きたい。 ③イラストや写真を多用して、大きな字で見やすくして欲しい。	<p>・住民グループインタビュー調査は、マイカー所有者を含めた高齢者等に聞き取りましたので、調査対象の記載を修正いたします。</p> <p>・今後実施するアンケートの参考とさせていただきます。</p> <p>・ご意見のとおり可能な限り、イラストや写真を用い分かりやすい計画書となるよう検討します。</p>	有

7	2p	事業評価は冊子の中のアンケート結果ですか？ (令和2年度で終了)	令和2年度をもって計画期間満了を迎えた連携計画の事業評価については、本計画では行っておりませんが、田村市公共交通活性化協議会において必要な取り組みの検討・検証を行って参りました。 また、アンケート等の各種調査については、本計画の策定に当たり現状と課題を把握・分析するために実施したものです。	無
8	31p	「利用者ニーズに合わせた……」 ・乗降場所は県道まで出てきて欲しいといわれ、ツイツイ利用者が難儀になったと、高齢者の声。 ・名称を統一してほしい。(高齢者に優しく、わかりやすく) ・滝根は小野町が生活圏になっているので、小野町への利用も可能にしてほしい。との声がある。(隣接自治体との共同運用) ・JRのsuicaを利用できる駅にしてほしい。(不便→JR利用を嫌がる市民の声(特に若者)) ・常磐交通バスの停車所を増やしてほしい。	・ご意見を踏まえ、デマンドタクシーの再編の内容を検討して参ります。 ・ご意見を踏まえ、デマンドタクシーの再編の内容を検討して参ります。 ・現在運行しているたきね乗合タクシーについては、滝根町内及び小野町の一部の施設において乗降が可能となっており、デマンドタクシーの再編に当たっては引き続き小野町への利用が出来るよう検討して参ります。 ・suica利用可能駅の拡大については、引き続き福島県鉄道活性化協議会を通じて、JRへ要望して参ります。 ・バス停留所の増設については、事業者との協議を検討して参りたいと考えております。	無
9	6p	対象とする交通手段で、サービスごとに、市で把握している車両台数を入れるとサービスごとの規模が把握できると思う。	・公共交通のサービス内容については、19pにて路線バス、鉄道、デマンドタクシーの運行状況を示しているところです。車両台数については、公共交通への維持に財政負担がどれだけかかっているかを理解いただくための周知活動を普及啓発活動と併せて行って行く予定で、その活動と併せて車両台数についても周知して参りたいと考えております。	無
10	26p	新たな交通サービスや技術が田村市にとってどのように活用できるか、どう改善されるかの検討の結果を市民に周知し、取り入れられるものはどんどん取り入れていくような形を現段階から考えてみてはどうか。検討した結果は公表してもらいたい。	・事業の検討結果など広く周知し、市民の意見等を取り入れて参ります。 なお、デマンドタクシーの再編においてはこれまで申請書による利用登録、電話による配車予約、現金・チケットによる支払であった仕組みを、ウェブ上から配車予約・決済が行えるようシステムの導入を検討しております。デマンドタクシーの再編内容の結果と併せて周知いたします。	無
11	37p	現在運転できている高齢者が運転できなくなった時どうするかを各自考えてもらい、その視点に沿った対策をすることも必要であると思う。	・住民アンケート調査及び住民グループインタビュー調査の結果を踏まえると、将来的に免許返納を検討している市民が一定層いることと(35.9%)、免許返納後の交通手段としてデマンドタクシーを利用してみたいという声を把握しました。 一方で、利用方法が市民へ十分に認知されていないことから、乗り方教室及び出前講座等の普及啓発活動の取組を通じて、運転免許返納後の生活を考えるきっかけとして頂きたいと考えております。	無

12	46~47p	<p>P46:目標の考え方が「安全で快適かつ分かりやすい待合環境への改善及び利用者の目線に立った情報発信による利用促進」とあるが、その指標が乗り方教室、出前講座の回数では、待合環境への改善は測れないのではないかと。別な指標が必要では。また、乗り方教室、出前講座の開催回数が年5回ではあまりに少なすぎないか。小学校の数でさえ5校以上あり、多くの市民に対して意識の向上にはつながらないと思う。</p> <p>P47:公共交通の維持にかかる財政負担を市民に広く周知し、例えば市民ひとりあたり年に〇回、〇円利用してもらえると、財政負担はこれだけ減るといような試算をPRして少しでも利用してもらえようように訴えかけることはできないものか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見のとおり、基本目標3の指標であった「交通拠点の整備箇所数」を基本目標4の指標として設定し、安全で快適かつ分かりやすい待合環境への改善が達成されているかを評価して参りたいと考えております。</li> <li>・計画期間内に年5回以上の開催を目指して参りたいと考えております。</li> <li>・ご意見のとおり、公共交通の維持に係る財政負担の現状を知っていただく周知活動に取り組んで参りたいと考えております。</li> </ul>	有
13	54、59p	<p>P54:乗り合いタクシーのキャッシュレス化も検討してはどうか。</p> <p>P59:乗り方教室は、小学生だけでなく、全市民を対象とすべきではないか。せめて公共交通を利用したことのない市民に対しては、地域の交通を理解してもらうためにも1度は利用してもらい、感想を聞き、その結果をフィードバックし、さらなる改善につなげる必要があると思う。1度も利用したことのない人の最初の利用にはかなりのハードルがあり、利用してみて便利だとリピーターにつながると思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見のとおり、デマンドタクシーの再編においては、キャッシュレス決済の導入を検討しております。</li> <li>・いわゆる交通弱者に位置づけられる小学生等を対象にした乗り方教室を実施するとともに、地域住民等を対象にしたデマンドタクシー出前講座において公共交通に対する意識向上を促して参りたいと考えております。</li> </ul>	無
14	63p	<p>表の中の「市民」の基本的な役割が、利用者目線で・・・積極的な意見・アイデアを提案する役割とあるが、市民の中でそんな役割になっていると知っている人はほとんどいないと思う。市民に対する周知がもっと必要である。そもそも、利用している市民が少ないのに利用者目線で提案といっても分母が少ないと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本計画を円滑に推進していくために、多様な主体の基本的な役割を明記し、関係者が主体的に推進することで本計画を着実に進めて参ります。</li> <li>・市民への周知活動は、基本目標5:持続可能な公共交通体制の仕組づくりにおいて実施して参ります。公共交通の利用者は減少傾向にありますが、その中でも市民の移動を支える移動手段としての役割は高まっており、公共交通を利用している人の視点からみた要望・ご意見は更なる利便性の向上や効率化を検討していく上で大切な視点であると考えております。</li> </ul>	無
15	67~69、71p	<p>P68、69:アンケートの回収率が低すぎないか。回収率が少ないことから公共交通に対する意識の低さが見受けられないか。そういった点からも今後の行政と住民との意識の共有を図る方策が必要では。</p> <p>P71:住民グループインタビューの全体数が見えない。※アンケートやインタビューした際の概要(日時)や質問の項目を資料に添付すべきでは。</p> <p>※多くの市民にあらゆる場面で考えてもらう(考えさせる機会を作る)計画にしてもらいたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民アンケートの回収率については、信頼できる調査とするため必要サンプル数を地区ごとに設定しました。本調査では必要サンプル数を上回る回答を得られたため、有効な結果と考えております。一方、ご指摘のように回収率35%は配布枚数からすると少ないため、今後施策を実施しながら公共交通に対する意識の醸成を図って参ります。</li> <li>・アンケート概要や質問項目を追記いたします。</li> </ul>	有